

答え合わせ・解説

問1	答え 1 知床	北海道東部にある知床半島は、冬に流れ着く流氷がもたらすプランクトンを起点として、魚類、鳥類、そしてヒグマなどの大型哺乳類までが密接に関わる豊かな生態系を持っています。この貴重な自然環境が認められ、日本では3番目の世界自然遺産として登録されました。
問2	答え 4 年間を通じて気温が低くサーバーの冷却コストを抑えられる点や、地震等の影響を受けにくい安定した地盤があるため	データセンターは、稼働する大量のコンピューターが発する熱を効率よく冷却する必要があります。北海道の寒冷な気候を利用すれば外気による冷却が可能のため、電気代などの維持費を削減できる利点があります。また、データの損失を防ぐために自然災害のリスクが低い場所が選ばれる傾向にあり、北海道の安定した地盤も立地の決め手となっています。なお、シラス台地は九州南部の特徴であり、北海道の土壌とは異なります。
問3	答え 2 水分が多く植物の遺骸が堆積した土地に、別の場所から土を運び入れることで、排水性を高め稲作に適した農地にするため。	泥炭地は寒冷な気候の影響で植物が腐りきらずに堆積した土地で、スポンジのように水分を大量に含んでいます。このため、農業を行うには「客土」によって土壌を入れ替え、さらに排水路を整備して余分な水分を取り除く必要がありました。他の選択肢にある「火山灰地」は関東地方や九州地方、「砂丘」は鳥取県などの山陰地方、「段々畑でのみかん栽培」は愛媛県や和歌山県などの気候と地形を活かした取り組みです。
問4	答え 4 冬に北西からの季節風が南西からの暖流の上を通る際に水蒸気を含み、山脈にぶつかるため	北海道の日本海側では、冬になるとユーラシア大陸から吹く冷たい季節風が、南西から流れる暖流の上を通ることで大量の水蒸気を補給します。この湿った空気が山脈にぶつかって上昇することで、日本海側に多くの雪をもたらします。
問5	答え 1 農業経営体の総数は減少したが、団体経営の数は増加し、経営の集約化が進んだ	二〇〇五年から二〇二〇年にかけて、農業経営体数は五百四十七から三百四十九へと減少していますが、団体経営は三十五から四十三へと増加し、その割合は約十二パーセントに達しています。全体の耕地面積に大きな変化がない中で経営体数が減っている事実は、一経営体あたりの規模が拡大し、農業経営が特定の経営体に集約・大規模化されていることを裏付けています。
問6	答え 2 夏季に発生する霧の影響で気温が上がりにくいいため、稲作よりも、冷涼な気候に適した酪農が盛んに行われている。	釧路湿原に代表される道東の太平洋側は、夏の季節風と寒流の影響による海霧で気温が上がらないため、米作りには適していません。そのため、この冷涼な気候を活かして、乳牛を飼育する酪農が大規模に行われています。選択肢にある「豪雪地帯」は主に日本海側の特徴であり、「温暖な海流」や「促成栽培」は宮崎県や高知県などの南日本の特徴です。
問7	答え 1 明治政府の開拓使が、広大な土地を効率的に管理・開発するために計画的な都市建設を行ったため。	札幌は1869年に設置された開拓使によって、何も無い原野から計画的に建設された人工的な都市です。アメリカの都市計画や京都の条坊制を参考に、行政機能や居住区を効率的に配置し、交通の利便性を高める目的で格子状の街路が導入されました。これは、古い歴史を持つ都市が地形や防衛上の理由から不規則な街路を持つことが多いのと対照的です。
問8	答え 4 広大な土地を生かした大規模な農業が行われ、小麦の収穫量が多く畑作や畜産業が盛んである。	北海道では、広い土地を活用して機械化された大規模農業が行われています。特に小麦の収穫量は全国トップクラスであり、酪農や畜産業も盛んです。
問9	答え 3 冬場にスキーなどのウインタースポーツを目的とした外国人観光客が多く宿泊し、観光関連の需要が高まっているため。	二世町は世界的なスキーリゾートとして知られており、冬の時期に外国人観光客の宿泊が集中します。観光客の受け入れやサービス提供に伴い、飲食業や宿泊業の雇用が大きく創出されるため、就業者割合で最も高い割合を示すようになります。
問10	答え 2 輪作を中心とした大規模な畑作が行われ、あわせて酪農も盛んである。	北海道の十勝平野は、日本を代表する畑作地帯です。1戸あたりの耕地面積が非常に広く、大型機械を導入した大規模な農業が展開されています。ジャガイモ（馬鈴薯）、てんさい（ビート）、豆類、小麦などを組み合わせた畑作のほか、乳牛を飼育して生乳を生産する酪農も組み合わせられているのが大きな特徴です。
問11	答え 1 東アジア / 航空機	北海道を訪れる外国人観光客は、地理的に近い台湾、韓国、中国といった東アジアの国・地域からの人々が中心となっています。また、北海道は島国である日本の中でも北部に位置し、海外との往来には移動時間の短い航空機が主に利用されており、その割合は約9割に達しています。
問12	答え 1 砕氷船と呼ばれる特殊な船に乗り、海面の氷を割りながら進む様子を間近で見学する。	網走や紋別などのオホーツク海沿岸の都市では、分厚い氷を砕きながら進むことができる「砕氷船」が運航されており、冬の北海道を代表する観光地となっています。流氷は寒冷な親潮（千島海流）の影響を受けて南下してくるものであり、暖流とは無関係です。また、流氷の上を歩いて国境を越えるような観光は行われていません。